

日玉浩史 レクチャー・ワークショップ

ダンス編集方法論

ダンス作品を作るのに重要なのは、単に動きを作ることではない。

作品のテーマを設定し、それに沿った方法を探すが、一つの有効な手段である。振付やその他のコンテンツの創作に際しての方法がその自由度を確保し、なおかつ、それをテーマに沿ったものにすることが容易になるからだ。

では、その方法を見つけ出すには何が必要なのか。それはどこにあるのか。見つけ出された方法はどのように活用されるのか。

舞踊作品を作り上げるための方法について、様々な手法を取り上げながら、レクチャーとワークショップを織り交ぜながら学ぶ。

【日時】

2014年12月27日(土)・
28日(日) 13:00~17:00

【会場】

神戸大学 発達科学部
身体表現スタジオ(F164-1)

※ 参加・見学・聴講無料



photo:yukiwo

対象

身体表現および関連領域(音楽・美術・衣装・文学・映画・演劇など)に関心のある方。受講者定員10名。書類選考あり。見学・聴講歓迎。

持物

PC・スマートフォンなど、情報検索ができる端末・ノート・筆記用具・動きやすい服装。

企画・予約・問合せ

関典子(n-seki@pegasus.kobe-u.ac.jp)

※お申込は、メールの件名を「日玉浩史WS申込」として、「氏名・年齢・所属・電話番号・メールアドレス・略歴・参加動機コメント」を、関までお送りください。※切：2014年12月12日。書類選考の上、ご連絡差し上げます。

日玉浩史 (Koshi Hidama)

舞踊家・振付家・作陶家、在ベルギー。岡山市出身、日本大学芸術学部卒業。チャイコフスキー記念東京バレエ団等で活動後、1993年に渡欧、ローザス、ニードカンパニー等の作品に参加。現在は、東日本大震災被災者支援活動をきっかけに始めた作陶活動に没頭、陶芸家として個展の準備中。12月12~14日、KAAT神奈川芸術劇場にて、『赤を見る/Seeing Red』に出演。好きな言葉…「苺を食らわば皿まで」。